

3-8 撮影

映画やテレビ番組の撮影で効果的なカメラワークを実現

映画やテレビコマーシャル、ドラマ、報道など多くの撮影現場でドローンの活用が進んでいる（図 19）。ドローンは、地上 50m くらいまでの高さからの撮影が手軽にできる。それまではヘリコプターで航空撮影をしていたが、50m 以下の高さの飛行は難しい。ドローンによって、その制約がなくなり、自由な発想で撮影することができる。地上から上空へ上がりながら撮影したり、高層ビルの外側から接近して撮影したり、山岳地帯でもあらゆる視点で撮影が可能になった。

映画やドラマ、コマーシャルのワンシーンを撮影するのに、それほど長い航続時間は必要ない。ドローンの航続時間である 15 分あれば十分である。

ドローンは、コントロールできなくなってどこかへ行ってしまうフライアウェイが起こることがある。街中など一般の人がいる場所に近いところでの撮影の場合、周囲の人に危険が及ぶ可能性は否定できない。そのため、場所によってはドローンに紐をつけて飛ばし、フライアウェイが起きてもどこかへ飛んで行ってしまわないようにしている。フライアウェイの原因は分かっていないが、数百回に 1 回くらいの割合で起きるため、撮影の現場ではリスク回避のために紐をつけることが多い。



図 19 撮影するドローン（出所：トーフナ映像）

迫力が増すスポーツ撮影

ソチ五輪で、スノーボードやスキーにおいて競技者の周りをドローンが飛んでいた。選手の近くから撮影することで迫力のある映像を放送できる。屋外で行われるスポーツでは、ドローンによる撮影が今後増える。マラソンや自転車のロードレース、自動車のラリー、モトクロスバイク、トライアスロン、マリンスポーツなどは競技場と異なり、カメラを設置する場所が必ずしもある